

情報交流会（2015. 2. 22名古屋） 助成申請活動開催報告

NPO法人地域の未来・志援センター
事務局 山下千尋

2015年2月22日（日）に開催いたしました情報交流会について、下記の通り報告いたします。

報告内容

1. 開催概要
 - 1) 開催名称
 - 2) 開催日時
 - 3) 開催場所
 - 4) 主催団体及び後援団体
 - 5) プログラム
 - 6) 参加者
 - 7) 広報実施内容
 - 8) 開催収支及び余剰金について
2. 開催風景
3. 目標と結果

別紙1 申請活動収支報告書

別紙2 情報交流会参加者アンケート結果

1. 開催概要

- 1) 開催名称：2014年度情報交流会「ネットワークをデザインしよう！
～NPOの活動がみんなの活動になるために～」
- 2) 日時：2015年2月22日（日）13:00～17:00（懇親会17:00～17:50）
- 3) 場所：名古屋文化短期大学A-402教室
- 4) 主催/後援
 主催：一般財団法人セブン-イレブン記念財団/NPO法人地域の未来・志援センター
 主催：なごや環境大学
 後援：愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市、環境省中部地方環境事務所
 協力：環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

5) 当日プログラム

時間	内容	登壇者
13:00	開会	
13:00-13:10	主催者挨拶・趣旨説明	セブン-イレブン記念財団 萩原啓吾氏
13:10-13:40	基調報告『西濃環境NPOネットワークの事例に学ぶ』	西濃環境NPOネットワーク 岩間誠様
13:40-14:30	パネルディスカッション	NPO法人まち創り 服部淑子様 NPO法人ピープルズコミュニティ 安田裕美子様 NPO 法人泉京・垂井 神田浩史様 岩間誠様
14:30-14:40	質疑応答	
14:40-14:50	分科会テーマ紹介	
14:50-15:05	休憩と移動	
15:05-16:25	分科会	◆話題提供者
	A) 地縁型ネットワークをデザインしよう	西濃環境NPOネットワーク 岩間誠様
	B) 水辺環境のネットワークをデザインしよう	NPO 法人表浜ネットワーク 田中美奈子様
	C) 里山保全のネットワークをデザインしよう	NPO 法人奥矢作森林塾 小林太郎様
	D) 若者が参加したくなる仕掛けをデザインしよう	損保ジャパン CSO ラーニング生 石黒奈保子
16:25-16:35	休憩・移動	
16:35-16:50	全体会	地域の未来・志援センター 萩原喜之 各分科会の代表者発表
16:50-17:00	閉会挨拶	なごや環境大学 事務局長 笠岡 透氏
17:00-17:55	懇親会	

6) 参加者

① 参加者数 (助成機関・発表者・主催者側・スタッフを除く)

目標数 100名 (協力者含む) → 34名 (うち5名は参加費非徴収の学生参加者)

2015年2月22日(日)『2015 情報交流会』参加者名簿

	名前	所属	備考
1	井上 稔那	マツヤデンキ	
2	岡田 斉	NPO 法人渥美半島ハイキングクラブ	
3	鈴木 一敏	NPO 法人渥美半島ハイキングクラブ	
4	江崎 忠男	中部異業種間リサイクルネットワーク協議会	
5	大橋 弘宜	NPO 法人寄付型自販機推進機構	
6	岡田 悟	NPO 法人愛知県シングルパパ・ママの会	
7	北山 克己	守山リス研究会	
8	木下 拓己	いるかビレッジ	
9	近藤 記巳子	相生山緑地自然観察会	
10	佐藤 正行	里山クラブ可児	
11	鷲見 鎮	里山クラブ可児	
12	里村 光弘	ユースクエア企画委員会	
13	末松 雅彦	小牧市南部地区ボランティア連絡会	
14	関原 康成	NPO 法人アースアズマザー	
15	高田 弘子	都市調査室	
16	辻 久好	いなべ市市民活動センター	
17	野田 美里	愛知工業大学大学院	参加費非徴収
18	畠中 良三	愛・地球博ボランティアセンター	
19	本間 貴宣	一般社団法人しん	
20	松原 正憲	NPO 法人 for your smile	
21	松原 明美	NPO 法人 for your smile	
22	平田	三菱電機エンジニアリング	
23	山田 新一郎		
24	山内 康平		参加費非徴収
25	吉田 翼		参加費非徴収
26	酒井 隆信	東濃信用金庫	
27	上岡 敏男	環境再生職人ネットワーク	
28	山口 登督	美濃加茂市役所	
29	内藤 大輔		
30	亀井 浩次	藤前干潟を守る会	
31	下総 夕可里		
32	瀧 あさみ		参加費非徴収
33	竹内 朋	わかもの会議	参加費非徴収
34	辻 郁子	エコネット近畿	

② 発表者、パネリスト、主催者・スタッフ数

合計 20名

(敬称略)

発表者 ・西濃環境NPOネットワーク 事務局長 岩間誠

・(特非)まち創り 理事長 服部淑子

・(特非)ピープルズコミュニティ 理事長 安田裕美子

・(特非)泉京・垂井 副代表理事 神田浩史

話題提供者 ・(特非)表浜ネットワーク 事務局長 田中美奈子

・(特非)奥矢作森林塾 小林太郎

・損保ジャパンCSOラーニング生 石黒奈保子(スタッフ兼務)

主催者側 ・(一財)セブン-イレブン記念財団 事務局次長 萩原啓吾、小野弘人

・(特非)地域の未来・志援センター 理事長 竹内ゆみ子、理事 萩原喜之、中川恵子

スタッフ ・(特非)地域の未来・志援センター 鈴木祐之、矢沢由紀子、山下千尋、三ツ松由有子

・なごや環境大学 事務局長 笠岡透、事務局次長 高田敏雄、根岸恵子、伊藤住洋

7) 広報実施内容

① 開催チラシの配布(印刷部数3,000部、送付総数618件)

・愛知県・三重県・岐阜県内NPOセンター 83件(送付部数10~50部×83件=1630部)

・2013助成金セミナー参加者 15件(送付部数2部×15件=30部)

・2013情報交流会参加者 30件(送付部数2部×30件=60部)

・東海3県環境系市民活動団体 490件(2部×490件=980部)

計2,700部

・その他(残りチラシは、理事・スタッフより各イベント・出先等で配布(約300部))

② メーリングリスト情報に掲載(6件)

・環伊勢湾原体験ML

・ぎふNPOセンターML

・地域の未来・志援センター会員ML

・地域の未来・志援センター愛知NPO-ML

・地域の未来・志援センター岐阜NPO-ML

・地域の未来・志援センター三重NPO-ML

③ ホームページに掲載(3件)

・セブン-イレブン記念財団HP

・ボラみみより情報局HP

・地域の未来・志援センターHP

④ Facebookイベントページに掲載

8) 開催収支及び余剰金について

事業助成金40万円に対し、70,533円の余剰金が発生いたしましたのでこれを返金いたします。

※収支詳細については別紙1「申請活動収支報告書」参照

2. 開催風景



①主催挨拶・主旨説明

セブンイレブン記念財団 萩原啓吾氏
地域の未来・志援センター 萩原喜之

主旨説明では、市民活動団体を訪問する中で、多くの団体の共通課題と感じた『ネットワークづくり』をテーマとしたいきさつが語られ、市民活動の展開において、ある段階で向き合うことになる壁、その壁を乗り越える方途としてのネットワークづくりについて考える場にしたとの説明がなされました。

②基調報告&パネルディスカッション 西濃環境 NPO ネットワーク 岩間誠様

基調報告として、揖斐川流域・西濃地域で 21 団体が加盟する流域連携の環境NPOネットワークについて、その設立背景や活動内容を報告いただきました。

パネルディスカッションでは、西濃環境NPOネットワークの主要メンバーの NPO 法人泉京・垂井の神田副代表理事、NPO 法人まち創り服部理事長、NPO 法人ピープルズコミュニティ安田理事長にも登壇いただき、ネットワークによる市民活動団体のメリットなどについて語られました。

アンケートでは「ネットワークを持つことで活動の幅が広がっていくことを改めて感じた」等の意見が挙がりました



③分科会

A.地縁型ネットワークをデザインしよう

基調報告のスピーカー西濃環境NPOネットワーク岩間様を NPO 関係者や行政職員らが囲み、ネットワークの立ち上げ方などについて話が進みました。

「地元を動かすには遠くの権威ある機関を巻き込むこと」など多くのネットワークづくりの秘訣が共有されました。

③分科会

B.水辺環境のネットワークをデザインしよう

話題提供者のNPO法人表浜ネットワークの地域での活動を軸に、地域住民などのネットワークへの巻き込み方について意見交換されました。地縁組織や自治体などの連携先に対しての提案の仕方などについて、参加者各自の経験や知識に基づく情報交流、相互提案が行われました。



③分科会

C.里山保全のネットワークをデザインしよう

話題提供者のNPO法人奥矢作森林塾がこれまで築いてきたネットワークを基に、行政や教育機関等との協力関係を築き方や、資金調達の手法などについて話し合われました。

また、里山保全を行う多くの団体の課題である人材発掘や育成についてもネットワークを築いていく重要性が共有されました。



③分科会

D.若者が参加したくなる仕掛けをデザインしよう

当法人インターン生が進行を行い、環境問題に興味のない若者に如何に市民活動を伝えていくか、また、NPOが学生に期待することなどについて話が進みました。

学生とベテラン市民活動家とがテーブルを囲み意見を交換するなかで、互いの価値観について相互理解を深める機会となりました。



④全体会・閉会挨拶

なごや環境大学実行委員会 笠岡 透氏

各分科会の内容が代表者からの発表により、全体で共有された後、なごや環境大学実行委員長笠岡氏より閉会の挨拶が行われました。

10周年を迎えるなごや環境大学においても、これまでの関係性を発展させネットワークの構築を進めたい旨が述べられ、今回のテーマ「ネットワーク」の重要性について改めて認識して本会の幕は閉じられました。



3. 目標と成果

今回のイベントの成果について企画作成時に作成した目標値との比較検証より以下の通り報告します。
 ※アンケート結果については、別紙2「情報交流会参加者アンケート結果」参照

1) 参加者に対して

期待する効果	目標値		実績 ^{※2}
① 他団体との連携方法に関する学びを得る	アンケート記入者の70%以上が設問「ネットワークづくりの参考になりましたか?」に対してプラス評価 ^{※1}	⇒	アンケート記入者の50%が同設問に対してプラス評価(「1(最高評価)」と回答した者は30.8%)
	<p><考察></p> <p>参加者の半数には連携方法に関する学びを与えられたが、目標には届かなかった。アンケートでは「ネットワークを持つことで活動の幅が広がっていくと感じた」などネットワーク構築の意義については学びを得たという声が挙がったものの、ネットワーク構築の具体策についての学びが少なかったとする声があった。</p> <p>振り返り会でも「テーマに沿ったメッセージ性が弱い」との意見があり、基調講演や分科会含め会全体として参加者の求めることと提供できたものの間に隔たりがあった可能性が高い。また分科会の進行打合せを当日まで行っていたことが示すよう、主催側の事務局と理事間でもテーマの共有が不十分だったことが、全体としてのテーマ訴求力の弱さにつながったと考えられる。</p> <p>当法人内でのテーマ共有は、理事に対してテーマや分科会進行に関して、打合せやメール等で共有を図っていたが、多忙なこともあり、事務局からの一方的な情報伝達の傾向が強く、理解度を深めるコミュニケーションになっていなかった。</p> <p><今後の対応></p> <p>主催側のテーマ共有は必須だが、十分に共有の時間を取ることのできない理事をも無理に関わらせることはせず、互いの状況を共有した上で余裕がないようならば外部人材に運営に加わってもらうことなども、テーマ性の強い企画の際は検討していく。</p> <p>基調報告に関してはテーマに沿った内容について紹介いただくよう、発表者に対して事前の発表内容摺合せや登壇者選びを適切に行っていく。</p>		
② 他団体とのつながり獲得	参加者数100名(協力者含む)	⇒	参加者数40名 (一般34名、協力者6名)
	<p><考察></p> <p>今回のイベント参加者は協力者含め40名と目標とした100名には大きく届かない結果となり、量的に十分に他団体と繋がる機会を参加者に提供することはできなかった。なごや環境大学との協働を前提に進めた本イベントだが、途中相手組織内の意思決定の遅れにより開催日程の決定が遅れたことで、広報開始時期に遅れが生じ、適切な時期に十分に告知が行き届かなかったことが参加者数の低下に結びついたと考えられる(チラシを市民活動団体等へ郵送したのは開催1ヶ月半前だった)。</p> <p>また、相手組織の意思決定の遅れに付き合う形になってしまったのは、相手に意思決定の必要を生じさせる当法人からの提案という形でなく、相手組織役員を兼務する理事が相手組織内部から話を進める形を取ったことで、組織内合意に時間が掛かったためと考えられる。</p> <p><今後の対応></p> <p>他の団体との協働でイベントを実施する際は、書面等を通じてその可否について事前(少なくとも半年前まで)に明確な返答をもらうことなどで、仮にその協働イベントが実施できない場合でも、広報期間の十分に確保できる別イベントを企画できるように運営体制を整えていく。</p>		

※1. プラス評価は、5段階評価中の「1」及び「2」の合計とする。

※2. 今回はアンケート評価を、「1」を最高評価「5」を最低評価とする5段階評価式にしたが、「1」を最低評価「5」を最高評価と誤って記入したと思われる回答が多く、正確性の高いアンケート結果にはなっていない。

2) 共催者に対して

期待する効果	目標値		実績
① 共催団体が 市民活動団体 に広く認知さ れる	参加者数100名(協力者含む)	⇒	参加者数40名 (一般34名、協力者6名)
	<p><考察・今後の対応> 上記「参加者にとって②」と同様に、広報の遅れが参加者数の伸び悩みに影響を与えた可能性が高く、結果として目標に掲げた数よりの半数以下の市民活動団体にしか共催団体の存在を認知してもらう事が出来なかった。 また、イベント参加以外にも、新聞や雑誌等メディアに取り上げてもらうことなどで、共催団体の認知を広める方策はあるが、今回はかなわなかった。 今後は参加者増加に向けた広報強化を行うとともに、こうしたイベントをメディアに取り上げてもらうことで、共催団体の認知度向上に結び付くよう、メディアが取り上げたいくなるような魅力や情報を付加することも企画作りの際に検討したい。</p>		

3) 地域の未来・志援センターにとって

期待する効果	目標値		実績
① 参加団体による ネットワーク 構築	ネットワーク構築案件1件の創出	⇒	イベント参加団体が主体となり、三重県北勢地域で「環境団体交流会準備会」が発足
	<p><考察・今後の対応> 今回のイベント参加者が主体となり、三重県北勢地域の拠点を置く環境系市民活動団体のネットワーク化を目指す「環境団体交流会」の準備会が3月7日に発足した。 発足時点では参加団体15団体で、年に数回の交流イベントを開催する予定だという。当法人にも地域は異なるものの環境系の市民活動団体の中間支援組織という事で誘いが来ているため、発足時からネットワークに関わっていくことで、ネットワーク構築及び運営ノウハウを獲得し、他地域でのネットワーク構築支援に結び付けていくことを考えている。</p>		
② 地域の中間支 援組織との協 働促進	なごや環境大学との連携事業を実施する	⇒	なごや環境大学10周年事業「リソースマッチング・プレゼン大会」(3/7開催)への運営協力
	<p><考察・今後の対応> 3月7日に名古屋で開催されたなごや環境大学主催イベント「リソースマッチング・プレゼン大会」への運営協力を行った。昨年も当該イベントへの運営協力は行ったものの、今回は分科会の運営を受け持つなど、企画内容から運営に関わり、連携の質もより深まったものとなった。 こうした運営面での協力の経験を積み上げていくことで、なごや環境大学に限らず他の中間支援組織との連携も可能にしていく事務局体制を整え、地域の環境系市民活動団体に対する地域全体の支援力を押し上げていきたい。</p>		
③ 協力者・賛同 者の獲得	会員(種別不問)5名獲得	⇒	パートナー会員5団体、賛助会員2名が入会
	<p><考察・今後の対応> 目標値とした5名を超える2名5団体が入会する結果となった。 今回は新規入会キャンペーンとして、当日入会者は参加費で会費を相殺する旨をアナウンスしたことで、参加者に入会動機を与え、一般参加者34名中7名(23.3%)の入会に結びつけた格好となった。 これまで当法人では入会動機として何を提示すればよいのかを模索していたこともあり、会員数の横ばいが続いていたが、こうしたイベントの参加料割引などでも入会動機になることが今回分かったので、満足度の高いイベントを提供することを前提としつつ、イベントを協力者や賛同者獲得の機会と捉え、会員獲得を進めていくことを検討していく。</p>		

4) その他の改善点（振り返り会及び事務局反省会から）

- ・他のイベントとの日程が重なったことで、学生参加者が当初の見込みより減ってしまった。
⇒今回のイベントでは若者との交流を目的に来られた参加者もあり、「若者との交流」というコンテンツが市民活動団体従事者の参加を促進している可能性が考えられた。他イベントとの日程の重なりによる学生参加者の減少は、広報時期の前倒しや若者にとって魅力ある企画作りを進めることで防ぎたい。
- ・事前ミーティングでは分科会Dは中止し、他に振り分けるとしながら分科会開始直前に分科会Dも行うことにしたため、参加者にもスタッフにも伝えきれず混乱した。
⇒事前告知の際に行うことを明記し、それを目当てに参加される参加者がいる可能性がある以上、分科会は参加者が0人だった場合以外は行う。1人でも参加される方がいる場合は、参加者に分散してもらうよう呼びかけるなどして、設定した分科会が遂行できるようにする。
- ・イベント中、参加者が一方的に話を聞くという時間が続き、緊張の途切れた参加者が居眠りする場面があった。
⇒緊張緩和のために参加者が小刻みに「間」の時間をとれるような進行を行っていく。
- ・金銭を取り扱う受付に、スタッフが不在になった時間があった。
⇒スタッフの役割分担表作成時に、受付にスタッフが不在にならないよう留意する。また、不測の事態が発生した場合にも受付のスタッフ以外の者が対応できるような役割分担にしておく。
- ・事務局から参加者や入会者の報告が指摘があるまでなされなかった。
⇒事前ミーティング時の参加者名簿の配布、振り返り会時の当日参加者数及び入会者数の報告は徹底する。
- ・プロジェクターを使った主旨説明の字と図が参加者には小さくて見えなかった。
⇒プロジェクターでスクリーンに文字情報を映写する際は、会場最後方からでも見えるよう留意して会場設営及び資料作成を行う。また、イベントの主旨説明のような重要な資料は参加者の手元で見れるよう配布資料として配る。
- ・分科会案内時に部屋番号のわかる案内図やテーマについてのアナウンスがなく、分科会会場の場所やどんな分科会があるのかが分からない参加者がいた。
⇒分科会を設定する際には会場に案内図を掲示し、プログラム時間が押していたとしてもテーマのアナウンスは欠かさず行う。
- ・アンケートを記入する時間がプログラム内に設けられておらず、回収率の低下などに繋がった。
⇒プログラム内にアンケート記入時間を設け、参加者の声をできるだけ多く回収するよう心がける。
- ・アンケート中の評価を尋ねる設問で、「1」を最高評価、「5」を最低評価という方式にしていたが、誤って回答したと思われる回答が多く、アンケート結果の正確性を損なうものになっていた。
⇒誤記入を招く数字単体の使用は極力避け、ガイド的に「とても」「やや」「どちらでもない」「あまり」「まったく」などの説明語を付けるようにする。

以上